

実地視察大学の概要

○課程認定を受けている学科等の概要

大学名		工学院大学（学部・学科等の課程）		設置者名		学校法人 工学院大学			
学部・学科等の名称等				認定を受けている免許状の種類・認定年度		免許状取得状況・就職状況（令和6年度）			
学部	学科等	設置年度	入学定員	免許状の種類	認定年度	卒業者数	免許状取得者数		教員就職者数
							実数	個別	
先進工学部	生命化学科	平成27年度	70人	中一種免(理科)	平成28年度 (令和元年度)	67人	4人	3人	1人
				高一種免(理科)	平成28年度 (令和元年度)			4人	
	応用化学科	平成27年度	95人	中一種免(理科)	平成28年度 (令和元年度)	89人	5人	5人	4人
				高一種免(理科)	平成28年度 (令和元年度)			5人	
	環境化学科	平成27年度	70人	中一種免(理科)	平成28年度 (令和元年度)	63人	5人	5人	1人
				高一種免(理科)	平成28年度 (令和元年度)			5人	
応用物理学科	平成27年度	65人	中一種免(理科)	平成28年度 (令和元年度)	58人	7人	6人	2人	
			高一種免(理科)	平成28年度 (令和元年度)			7人		
機械理工学科	平成27年度	65人	高一種免(工業)	平成28年度 (令和元年度)	51人	1人	1人	0人	
工学部	機械工学科	昭和24年度	154人	中一種免(技術)	昭和53年度 (令和元年度)	142人	3人	3人	1人
				高一種免(工業)	昭和29年度 (令和元年度)			2人	
	機械システム工学科	昭和37年度	105人	中一種免(技術)	昭和53年度 (令和元年度)	102人	3人	3人	2人
				高一種免(工業)	昭和51年度 (令和元年度)			1人	
	電気電子工学科	昭和30年度	120人	中一種免(数学)	昭和36年度 (令和元年度)	110人	7人	6人	1人
				高一種免(数学)	昭和36年度 (令和元年度)			6人	
高一種免(工業)				昭和36年度 (令和元年度)	2人				

建築学部	まちづくり学科	平成23年度	85人	高一種免(工業)	平成23年度 (令和元年度)	80人	1人	1人	0人
	建築学科	平成23年度	145人	中一種免(数学)	平成23年度 (令和元年度)	121人	0人	0人	0人
				高一種免(数学)	平成23年度 (令和元年度)			0人	
				高一種免(工業)	平成23年度 (令和元年度)			0人	
建築デザイン学科	平成23年度	115人	高一種免(工業)	平成23年度 (令和元年度)	124人	0人	0人	0人	
情報学部	情報通信工学科	平成28年度	90人	中一種免(数学)	平成28年度 (令和元年度)	77人	1人	0人	0人
				高一種免(数学)	平成28年度 (令和元年度)			1人	
				高一種免(情報)	平成28年度 (令和元年度)			0人	
	コンピュータ科学科	平成18年度	90人	中一種免(数学)	平成18年度 (令和元年度)	92人	5人	4人	1人
				高一種免(数学)	平成18年度 (令和元年度)			4人	
				高一種免(情報)	平成18年度 (令和元年度)			5人	
	情報デザイン学科	平成18年度	70人	中一種免(数学)	平成18年度 (令和元年度)	70人	1人	1人	0人
				高一種免(数学)	平成18年度 (令和元年度)			1人	
				高一種免(情報)	平成18年度 (令和元年度)			0人	
	情報科学科	令和5年度	60人	中一種免(数学)	平成28年度 (令和元年度)	54人	9人	6人	3人
				高一種免(数学)	平成28年度 (令和元年度)			9人	
				高一種免(情報)	平成28年度 (令和元年度)			4人	
入学定員合計			1,399人	合計	1,300人	52人	100人	16人	
教員養成に関する情報の公表状況		https://www.kogakuin.ac.jp/career/license/teacher.html							
備考									

実地視察大学の概要

○課程認定を受けている学科等の概要

大学名		工学院大学（研究科専攻等の課程）		設置者名	学校法人 工学院大学				
研究科・専攻等の名称等				認定を受けている免許状の種類・認定年度		免許状取得状況・就職状況（令和6年度）			
学部	学科等	設置年度	入学定員	免許状の種類	認定年度	卒業者数	免許状取得者数		教員就職者数
							実数	個別	
工学研究科	機械工学専攻	昭和39年度	70人	中専修免(技術)	平成2年度 (令和元年度)	67人	2人	2人	1人
				高専修免(工業)	昭和40年度 (令和元年度)			2人	
	化学応用学専攻	昭和39年度	50人	中専修免(理科)	平成2年度 (令和元年度)	49人	0人	0人	0人
				高専修免(理科)	平成2年度 (令和元年度)			0人	
	電気・電子工学専攻	昭和39年度	60人	中専修免(数学)	平成2年度 (令和元年度)	72人	0人	0人	0人
				高専修免(数学)	平成2年度 (令和元年度)			0人	
				高専修免(工業)	昭和40年度 (令和元年度)			0人	
	情報学専攻	平成6年度	50人	中専修免(数学)	平成9年度 (令和元年度)	45人	1人	0人	0人
				高専修免(数学)	平成9年度 (令和元年度)			0人	
				高専修免(情報)	平成13年度 (令和元年度)			1人	
建築学専攻	昭和39年度	60人	高専修免(工業)	昭和40年度 (令和元年度)	74人	0人	0人	0人	
入学定員合計			290人	合計		307人	3人	5人	1人
教員養成に関する情報の公表状況		https://www.kogakuin.ac.jp/career/license/teacher.html							
備考									

教職課程大学実地視察に対する講評

実地視察日：令和7年12月25日（木）

実地視察大学等：工学院大学（オンライン）

【全般的事項】

○教員養成に関する教育課程、教育研究実施組織等については、全般的に基準を満たしており、おおむね良好に実施されている。引き続き、教員養成の水準の維持・向上に努めていただきたい。

【個別事項】

1. 教職課程の実施・指導体制（全学組織等）

○貴学としての教員養成に対する理念・構想について、それを明確化・具体化するために、教職課程に対する全学的な組織、教育課程や教員組織がより一層充実したものととなるように、今後も努めていただきたい。

○全学的なファカルティ・ディベロップメントやスタッフ・ディベロップメント等を通じて、教員養成に関する最新の制度等への理解を図るとともに、教職課程コアカリキュラムをふまえたシラバス内容の確認・充実、及び教員養成の水準の維持・向上に努めていただきたい。

2. 教育課程、履修方法及びシラバスの状況、教育研究実施組織

○シラバス全般について、教育職員免許法施行規則に定める「含めることが必要な事項」が含まれているか否か、シラバスからは判断できない授業科目や、教職課程コアカリキュラムに定める到達目標が含まれているか判然としない授業科目が散見されたため、授業内容及びシラバスの見直しを組織的に行うこと。

○特に、ICTの活用を含む指導法や教職の科目について、学生が教員になった時を見据え、ICT活用能力を伸ばすことができるよう、大学の特性をいかした授業内容の見直しや関連の施設の整備を行い、さらに大学の強みや専門性をいかした教員養成を行うことが望ましい。

3. 教育実習の取組状況

○教育実習について、引き続き地元の教育委員会と連携いただき実習先の確保に努めていただくとともに、学生の負担軽減等の観点から、やむを得ず遠隔地の学校や学生の母校における実習を行う場合においても、実習先の学校と連携し、大学が教育実習にいっそう関わる体制を構築するとともに、実習期間中の学生への適切な指導方法、公正な評価が保証されるよう、努めていただきたい。

4. 学生への教職指導の取組状況及び体制

- 教職志向性を高める卒業生との「教師会」については特色ある取組であり、評価できる。
- 今後、学内でよりよい教職指導ができるよう、履修カルテの電子化についての検討を行っていただきたい。

5. 教育委員会等の関係機関との連携・協働状況（学校現場体験・学校支援ボランティア活動等の取組状況）

- 「学生ボランティア」等の取組を通じた地元教育委員会等との連携について確認ができた。今後、大学の強みをいかした地元教育委員会との連携を期待する。

6. 施設・設備（図書を含む。）の状況

- 施設・設備については、全般的に良好に整備されていることを確認できたが、学生が最新の知識を得られるよう、今後、貴学の強みをいかした教科教育の専門性を高めるような教科書や関連書籍、デジタル教科書等の購入を検討いただきたい。
- 教諭能力開発備品倉庫などの大学の特色をいかした取組について、今後さらに教職課程の中でも活用いただきたい。

7. その他特記事項

- 教職課程講師会については特色ある取組であり、評価できる。
- 担当科目に関わる活字業績を有さない教職科目担当教員が見受けられたため、ファカルティ・ディベロップメントを通じた授業内容の省察・改善や、関係学会や研究紀要への論文投稿などにより、担当科目において含めることが必要な事項に関わる研さんを積むことを可能とする環境の整備に引き続き取り組んでいただきたい。